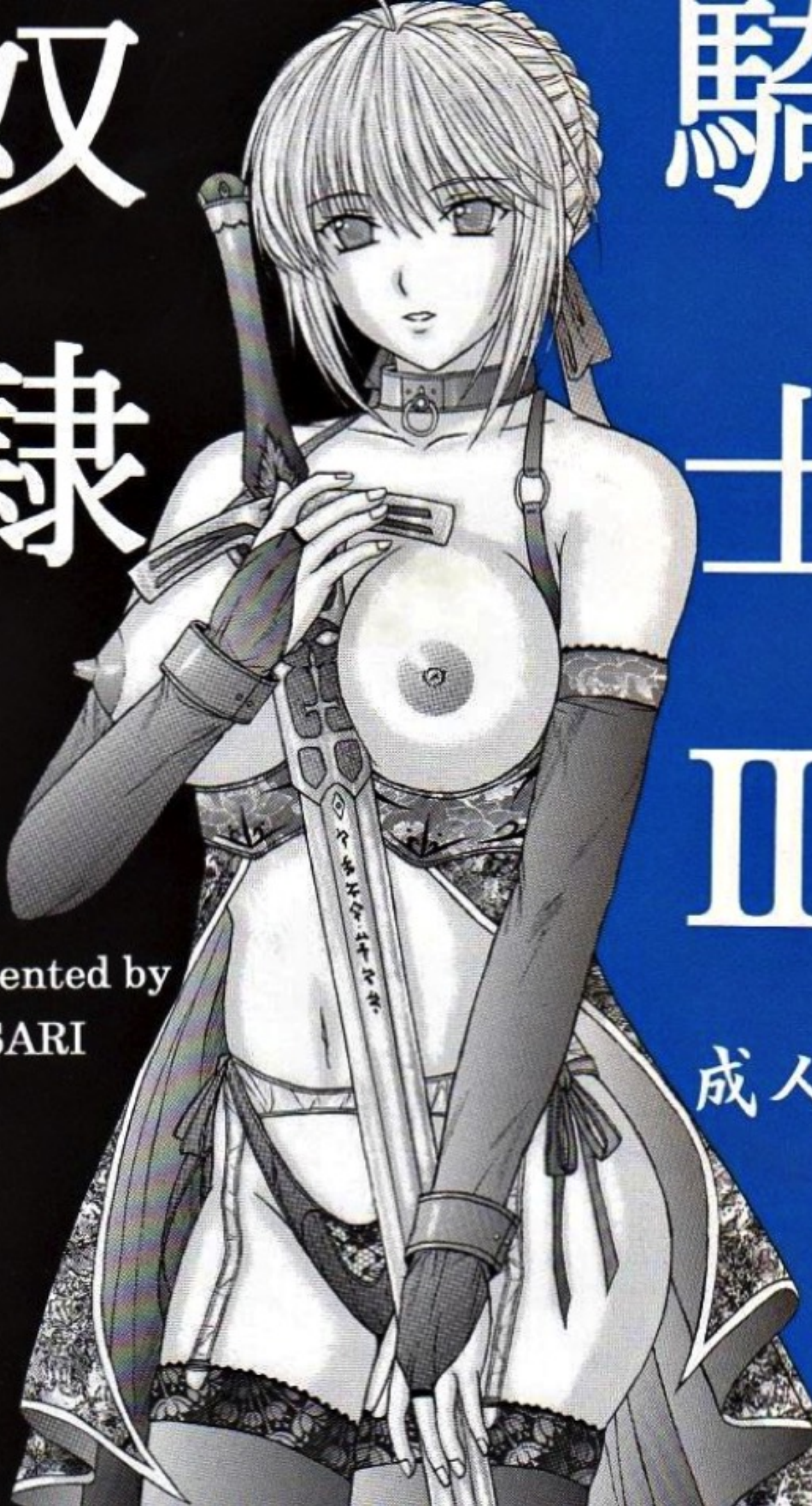


奴
隸

騎
士
III

Presented by
KUSARI

成人向



奴



隸



騎



士

あれからどれ程の
時が経っただろう…
私は今日も彼の
女として抱かれています

あ…はあ
あああんっ

あああん

はしたなく
喘ぎ声をあげ淫らな
姿を晒している
自分が今ここにいます…

ああ…イイツ
はああんっ

あっ

ひああっ

はあ

彼の手に
堕ちてからの私は
従順そのものだった

もつとだ
もつと腰を振れ
セイバー

私のモノを
貴様の子宮で
感じるがいいっ

ああ

ああん

イイツ

あ…

はい

お…膣奥に
くるのお…っ
ああはあ

ほら…もつと尻を
突き出して
よく見せてみる

ククク…
貴様の膣内から
私の精液が
溢れてくる様は
実に良い眺めだ

私を完全に
我が物にした余裕
からなのか

ああ…あんっ
はああ…ああっ

よし…いいぞ
綺麗に舐め取れよ

ん

ん…んふう♥
うん…んんっ

ひあああっ

あはあああ

ああっ

はあ

あ…

あん

うん

はあ

んっ

私の身体は
もう彼の強制下に
置かれてはいない

おい…唾え込む
ときは何て
言うんだった？

お…お願い
…します

さあ射精すぞ
貴様の膈内に
たつぷりとなっ

あああん

…どうかか…
貴方の…この
遅しいモノで

淫乱な…私…
…セイバーを
い…いじめて
…ください

あつ…はああ
んあん…ああ

あはあ

私はもうすっかり
この男の奴隷に
なってしまった…

あつ…は…はいい
しあわせ…です

あん

ああんっ

この私の太いモノで
膣奥まで突かれて
最高に幸せだろうか？

あうっ

はあっ

あうっ

はあっああ

ああん…あはあ
あああっ

ああああっ

ああんっ

あうっ

私の身体で彼が
触れていない
部分などもはや
ひとつもない

ああ

そらっ…射精すぞ
顔か膣内どちらに
欲しいか言ってみろ

はあんっ

ああん…あつ
な…膣内にい…

あっ

この…淫乱な…
私の…膣内に
くたないっ

彼は私の乳房を
揉みしだき玩具の様に
弄ぶのが好きらしい…

良い乳だ…
この手触りが
何ともいえないな

秘部を拉げてみせ
彼に懇願する私の
姿を見たら士郎は
どう思うだろうか…

セ…セイバーは
淫乱な…女です…
だから…ここに

…膣奥まで
よく見えるぞ

貴様の肉壺は膣内
まで実に美しいな
セイバーよ…

ギルガメッシュ様の
モノを…挿れて
欲しい…です…

挿れて欲しくて
堪らなそうだな…
さあ…いやらしく
おねだりしてみせろ

はあ…あぁ

あんっ

はあ

あ…

あん…あぁ

あぁ

はあ

肉欲に抗えない私は
もう彼から離れる
ことはできない……

あはあっ

ああ

ああん

あはあっ

ひあ

ああ……あっ

そう……私自身が
彼に弄ばれる事を
心から望んでいる

はきっ

あっ……ああ
はああんっ

ああ

そうだ……その調子だ
いいぞセイバー
激しく腰を振れ……っ

あはあ……

はきっ

あはあ……

あっああ

あんっ……イーン
ああ……イクウ

ああ

あっ

あん……腫奥まで
きて……ますっ
あはああっ

肉奴隷となって
しまった私に昔の
面影は既らない…

いい締め付けだ
いつもながら
堪らん
貴様の膣内はっ

あ…あん

ククク…
どんな気分だ？
私の目の前で
放尿する痴態を
晒すのは…

騎士王には
あるまじき姿だと
思わないか
セイバーよ

私は騎士王ではなく
淫乱で卑しい牝犬に
成り下がってしまった

本当に
可愛い奴だよ
オマエは…

彼の前で淫らに
喘ぎ声をあげ乳を
揺らし腰を振る…

あ…イクう…っ
セ…セイバーは
イってしまいます

ああん

ああ…あう
もう…ためえ
はあ…あっ

ひあっ

ああ

あっ

あっ…イイツ
すこく…あんっ

あはあっ

あっ…あっ…あ
イイツ…ああん

ああああっ

絶え間なく溢れる
かのように彼の
性欲は衰える事を
しらない…

はあ…

ああ…

あはあ

いい貌だ…
我にすがりつく様な
その表情が実に良い

あん

ほら…淫乱な牝犬
らしくもつと淫ら
で甘えるように
啼いてみせろ

気分次第でどんな時
でも私を求めてくる
…それを私は拒む
ことができない

あ…はあ

あう…

もう限界か？
だがまだ我は満足
していないぞ…
さあ…股を開け

そして性交する
度に彼への愛情が
深くなっていく…

あん…イイツ
あはあ…あん

はあ

あつ

あま

はあ

はあ…

はあつ



昼と夜となく彼に
抱かれ私は充分な程
快楽を覚え込んで
しまっている

彼に抱かれる事が
今の私の全て……

ああ……うん

あああ

イけ……っ
何度でも気が狂う
程イってしまえっ

ああっ

ひあ……あ

あ

はあ

あ

ああん

あ

あ……ああ

あはあ

ああん

ああ……イクう
ま……また……
イキ……ますっ

あはあ

あ……あああ
はあ……あん

ああ

あ……あん

あはあ

…私はまだ士郎の事を愛している

ああんっ♡

はあ

あはあ

ああ

あっ…あん
で…ちやうど
だ…だめえ…っ
搾ら…ないで♡

あっ

あはあ♡

あっ

ククク…見てみろ
勃起した乳首から
母乳がどんどん
溢れ出てくるぞ…

あ…あ♡

あああっ

けれど彼の存在
が薄れていく
のを感じます…

あん

はしたなく母乳を
撒き散らして
みっともない女だ

あっ

あん

あう

あああ…っ♡

あはあ…っ♡

あはあ…っ

はあっ

ひああ…あん
ああ…イイツ♡
スモイ…のお♡

もっと気合いを
入れて腰を振れよ
セイバー

私はこの方の
従順な牝奴隷…

ああんっ

士郎と同じくらい
この方を愛して
しまっている…

ああっ…だっ…
射精して下さい…
セ…セイバーの
膣内に…ああ

あんっ

ああっ

はあっ

あ

あっ

あ…熱い精液を
溢れるくらい…
注ぎ込んでえっ

ああ

はあっ

あんん

もしまた士郎と再会
する事があれば…
私は…私は…

あっ…んっ…ん
愛して…ますう
んうっ…んっ

んっ…もっど
あん…いじめて
…ください…

あ…んんっ

んんっ

んぶう

んっ…あんっ
ギルガ…メンシユ
…さまあ…っ

…んう

セイバーが
大きな選択を
迫られる日：

満月の夜
ギルガメツシュ
居城にて…

んっ

んふっ

あん…んっ

んんっ



そうだ…いいぞ
良い舌使いだ…

んっ

…セイバーよ
随分と上手く
なったじゃないか

んん

初めての頃とは
比べ物にならない
上達ぶりだな

んう

ん…んっ

んっ

我が教え込んだ
甲斐があるという
ものだ…

んう…っ

あんっ

んん…あん
ん…んむっ



…貴方が私を
変えてしまった

だが私のモノを
美味しそうに
啜え込む
その姿こそが

そうだろうか？
セイバー

こんな淫乱な
女に……

貴様にとって
至福の姿だと
いうことだ……

はい……

……は……

あん

んんっ

もはや何処にも
存在しないと
いうことだ……っ

んっ！

んくっ

かつて騎士王などと
称えられていた
気高く崇高な女は

はあ

ん…んふっ

んっ……

あ…ん

あ

はあ

あんっ

んっ





はあっ

膣内射精しされた時の快感は極上だろう？

…貴様の肢体は
私の精液無しでは
いられない

ん…んっ

我から離れる事は
できないのだ
セイバーよ…

あ…う

……っ



貴様はこのギルガ
メッシュ様のもの
なのだからな

わ…私は…
貴方を…

…愛して…

ククク…愛などと
いうものは移ろい
易いもの…

…衛宮士郎

貴様がかつて心
から愛した男…

!!



今は我を愛して
いようがオマエは
まだ奴のことを
忘れてはいない

セイバー…貴様は
我だけを唯一人
愛さなければ
いけないのだ…

私は…まだ…
士郎のことを…

…我が奴を忘れ
させてやろう

私の女であり…

奴隷であり

淫乱な牝犬…
それが貴様だ

これからの我との
より良い主従関係
のためにも……

その淫乱な肢体を
今日はじっくりと
調教してやろう

さあ…尻を突き
出して肉壺を
よく見せてみる

そして
いつものように
我に媚びて
みせるがいい

…は…はい…
ギルガメッシュ
…さま……っ

ど…どうやら…
私の…卑猥な
…肉壺を……

…ご覧になつて
…下さい……っ

さて…そこを
どうして欲しい？
言ってみろ…

…どうか…セ…
セイバーの…
いやらしい…穴を

この…卑しい肉壺を
たっぷり…弄つて
下さい…ませ…っ



この指で掻き回して欲しいか？

…はい……
どうや…お願い
…します…っ

な…臍内を…
掻き回して…

…ください

…でも…何か…
…今日の貴方は
いつもと違う…



そう…だから
我としては

貴様の立場を
再度認識させて
おきたいのさ…



あめ…っ

明確にな…っ



あはあ…あ

ああん

あっ…あう



…何故今更このように
貴様を試すような
質問をするのか…

さぞ不審に思っ
ているだろうな？

…え…

…それは今日が
貴様にとって特別な
日になるからだ…





貴様のこころは
いつ見ても
素晴らしい...

世界中のどの女
よりも名器だと
いえるだろう

あはあ

んっ

あっ

ああっ

ああんっ

ひああっ

はあっ

あ...あん



自慢していいぞ
セイバーよ

まさに王たる我に
相応しい女だ...

あひい

あっ

ああんっ

はあ...ああ

あん

あはあ...

あ...くう



良い締め付けた
膣壁が絡み付いて
くるぞ...

ああん

あっ

はあっ



ひ...ああ

あはあ

ああ

あ...ああ





ククク…いったか
指で弄っただけで
随分と淫らに啼く
女になったな

はあ

あぁ…はあ
い…イイ…っ
気持ち…いい

はあ…

あ…っ

あぁっ

その浅ましい淫乱
ぶりも私の調教の
賜物ではあるが…

あぁ…あぁっ

は…あ



私のモノが挿れて
欲しくて堪らないか？
膣奥まで感じさせて
ほしいだろう…



あぁ…はあ…
ど…どうか…
貴方のモノを

ほ…欲しい…

い…挿れて…
あ…く…
ください…

あ…っ



…だが駄目だ
まだお預けだよ
セイバー…

え…っ

あ…あ



騎士の肢体とは程遠いその自分の淫猥な肢体をよく見てみるがいい…



発情して性交をねだる淫乱な牝犬には躰が必要だろう…

我慢する事でより高い快感を得る事ができると言うものだ

そ…そんな…



弄具にされるのが似合う淫らな肉質…乳首は常に勃起し母乳を撒き散らす

……



ひっ！

ああんっ

あはあっ

ああっ

あう



そして肉壺は愛液を多量に溢れさせて牝の匂いを発散させている…

おまけにこども随分と大きくさせているではないか



そ…そんなあ

ああっ

だめえっ

あっ…あんっ





身も心もとろける
ような快感を
与えてやるぞ…

だ…めえっ
ひあ…あっ
はあっ



ここを使う事により
貴様は至高の悦楽
を得る事ができる…

あ
ああっ
あはあ
あっ…ああっ
はあっ
あんっ



あはあ

あああん
ああっ
はあ
あ…あ

さすがは淫乱な
牝犬だ…自慰で使用
済みとは感心したぞ
セイバーよ…



ああっ!
あ…あ



……!
ほう…この拡がり…
…まさか既に自分で
ここを使用していた
とはな……



そ…そこに……
挿れられたら……
私…私は……っ



私のモノを受け
入れる準備は
既にできていた
というわけだ…



ああ…だ…めえ
一気に…挿れ…あ



ならば遠慮は無用
一気に奥まで突き
挿れてやろう



ああ…あん
お…奥にい…
くのお…っ

ひあああ

あ

ああ…っ

あはあ…っ
あはあ…っ
あはあ…っ

あ

あはああ



淫乱な貴様を満足
させてやれるのは
この我だけだ…
感謝しろよ牝犬っ

…は…はいい…
キルガ…メツシユ
なまあ…っ



はぁっ

あぁ

はぁ…あぁ
あぁあぁっ

あぁ…ん

ひぁ

あ…貴方だけの
牝奴隷ですっ

はぁ…あぁ

セイバー…
貴様は誰の女だ？
誰の所有物なのか
言ってみろ

あぁあぁ

あぁ…あんっ
…わ…私は…

はぁう

あっ

あぁんっ

はぁっ



あっ

はぁ

あぁ…っ
わ…私…すごく
興奮…してる…

はぁっ…あぁ…
愛して…ますっ

あはぁっ

はぁ

あっ…あぁん

この我を誰よりも
愛していると
誓えるか？

は…はい…っ
誓え…ます

あぁ…あ

あぁ

い…イイツ…もう
好きに…してえ



あはあっ

ああんっ



あっ…はい…
ありま…せん

その言葉…
貴様の名にかけて
嘘偽りは無い
だろうか？

…私は…貴方を
誰よりも……
愛しています



もはや何の問題も
無いな…今の言葉
をしつかりと
伝えてやれよ…

そうか…それ程
までに我を愛して
いるのならば

ああ…

あん…っ

…貴様の愛した
衛宮士郎に
はつきりとな

あっ

はあっ



さあ…
感動の再会だ…
奴に会いに行こう
ではないか

…貴様も
昔の恋人に会えて
嬉しいだろう？
セイバー…

あ…あ…

…え…！？

☆本編の読み方ポイント☆ 挿れる⇒入れる 肢体⇒からだ
膣内⇒なか 膣奥⇒おく 膣内射精⇒なかだし 射精す⇒だす 我⇒オレ

☆あとがき☆

☆奴隷騎士Ⅲをお買い上げありがとうございますっ！
初めての方もそうでない方もこんにちはっ(^^)/
巨乳と陵辱寝取られ大好きなサークルKUSARIのアオイみっくです☆
え～ではいつもの挨拶が終わりました(～～;)すみませんっ！！(>_<)
奴隷騎士Ⅱから10ヶ月も空きました(～～;)ありえない空き方です…
そのわりにページ数も普通だし…でも今回は仕方が無いという程
描く時間が無かったので…許してくださいっ(>_<)
さて本編についてですが一番の疑問はなんでギルガメッシュはズボン
脱がないで性交してるの？ってことです…陵辱連鎖でもそうでしたが
野郎はズボン脱がずにセックスしております(～～;)これは1つは
ズボンのトーンにより画面が引き締まるからです…今回は特にセイバーと
ギルガメッシュが髪の毛は色無しなので画面がより白くなるため効果的では
あります…もうひとつは単純に野郎のキンタマや尻をあまり描きたくない
からですね～(～;)まあ次回の別シリーズからは脱いでもらおうとは思いますが
さすがに変なので… ☆さて次の奴隷騎士Ⅳではいよいよ士郎との再会編です
いつ発売になるかは分かりませんがⅣも是非宜しくお願い致します～！☆

☆新刊等の詳しい情報はメロンブックスホームページのサークル情報版に
あるアオイみっく通信をご覧ください☆1番上の方に小さくサークル情報版と
ありますのでそこをクリックして下さい(^^)/
☆タイトル 奴隷騎士Ⅲ ☆サークル著者 KUSARI アオイみっく
☆印刷所 サンライズ ☆発行日 2008年 9月 13日
☆メール kf58gst@star.ocn.ne.jp メール送信される場合は必ず題名に
アオイみっくと入れて下さい☆無い場合はスルーされます☆
☆18歳未満のご購入及びご購入はご遠慮ください。この本の一部及び全部を
許可無く無断で複製複写転載する事を禁じます。

☆KUSARIの同人誌販売委託店一覧です
⇒虎の穴、メロンブックス、メッセサンオー、まんだらけ、たちばな書店
MAGMAG、四国信長書店、ブックメイト、同人堂、他いくつか…
最寄りに同人ショップが無かったりPCが無く通信販売できない環境の方は



騎士執奴

KUSARI

アオイみっく



KING ARTHUR

SABER